

先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）

中間評価結果

機関名	北海道大学
事業概要	創成研究機構グローバルファシリティセンター及び技術支援本部からなる技術支援・設備共用コアステーションを中心に、全学的な視点に立ち戦略的に先端機器群を高度化・共用するとともに、研究支援人材の育成と配置を最適化する運営体制を構築する。
評価（総合評価）	コメント
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器共用を推進するグローバルファシリティセンター（GFC）と技術支援本部からなる組織を整備し、事務組織との連携も含めた管理体制の組織化が図られている。 ・ 様々な先進的な取組が順調に進められ、実施体制や仕組みの構築も計画を上回る成果となっており、今後も発展が期待できる。 ・ これまでの施策への参画実績も含め、先導的な役割が期待される機関であり、より高い目標設定も期待したい。また、事業終了後の継続性を含めた資金計画の策定について一層の具体化が望まれる。
評価（個別評価）	
① 進捗状況	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業推進の核となる組織（CoSMOS）を設置し、ガバナンスの強化を図りつつ、マネジメント体制の構築、研究基盤 IR の整備、機器共用機能強化、研究支援人材の育成等のそれぞれの取組が着実に進捗しており、適切な管理が行われている。
② 経営戦略	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画や北大研究戦略においてコアファシリティの取組を明記し、重要な経営戦略として位置付けている。合わせて、研究データポリシーの策定や産学連携活動においても、機器共用を位置付けて経営資源として活用している。 ・ これまでの政策への関与や実績も含めると、より先導的な取組が期待され、より挑戦的な目標設定があってもよいと考えられる。
③ 実施体制・仕組み	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ データを収集・統合し、共用の状況を可視化する IR システムの構築により、効果的・効率的な運営のための基盤が整備されつつある。 ・ 執行部に加え、財務部、研究推進部、総務企画部などの事務組織とも連携し、

	大学の経営戦略、ガバナンスの下でコアファシリティ化の推進体制の整備を行っている。連携の強化のみならず、さらに、人材・資金・ルール等の統括的にマネジメントする組織作りに期待したい。
④ 人材育成	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事部と協議し、若手技術職員の前倒し採用と育成を行う制度設計等に取り組み、技能向上や技術継承を推進している。 ・ 技術職員が持つ技術をコアに、研究者とともに課題解決を図る「R&T コラボプロジェクト」の取組により、研究者を取り込み、良い協働体制を築いている。
⑤ 資金計画	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学長裁量経費の活用による機器の機能強化を行うとともに、利用料収入を支援人材育成へ還元するなど、自主財源等も活用した、継続的な事業の推進が図られている。 ・ 事業終了後の雇用等の継続性に関して、利用料収入や自主財源も含めた、計画の一層の具体化が求められる。
⑥ その他の政策との連携	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北大リサーチパークを軸とした知の循環の取組の中で、産学連携・社会貢献を支える機能として、機器共用を位置付けて活用している。 ・ テックガレージは、新たなイノベーション創出や、スタートアップ支援としても機能している。 ・ 創発的研究支援事業の採択者の利用料軽減など、若手研究者の研究環境整備、研究力強化への取組も進めている。
⑦ 外部連携、国際化	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ JAXA への技術職員の長期出向プログラムや、東工大の「TC カレッジ」との連携など、他の研究機関と連携した人材育成などが進んでいる。 ・ 国際共同研究や、外国人研究者の利便性向上など、国際化を推進する施策にも更に期待したい。
備考	なし